

施策 1 次代を担う子どもたちをはぐくむ
 ～学校教育等を充実し、推進することにより、子どもたちに
 「自ら考え、自ら学び、自ら行動する力」を身に付けさせる～
【施策1では、児童は小学生を、生徒は主に中学生を指します】

基本施策1－1 わかる授業を推進し、自ら学ぶ力を身に付けさせる

1 概要

- 「教師は授業で勝負」を基本に、一人一人の子どもの実態をしっかりととらえ、少人数指導や学習形態の工夫等、指導方法の工夫・改善を通して「わかる授業」を実践することにより、子どもに学習意欲と基礎的な知識・技能を身に付けさせていきます。
- また、科学館、図書館、博物館等を活用した学習の積極的な展開や、思考力・判断力・表現力等を一層高めるための授業づくりにより、子どもに好奇心と主体的な学びの力をはぐくむとともに、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決する力を身に付けさせます。

2 成果指標

(1)学ぶ意欲と確かな学力をはぐくむ教育の推進

①新学習指導要領¹への確実な対応

学習指導要領²の改訂を踏まえ、新しい千葉市版年間指導計画を作成するとともに、各学校に改訂の趣旨や内容を周知することにより、新学習指導要領に適切に対応していきます。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
学習指導要領に基づく「千葉市版年間指導計画の作成」	小学校指導計画の作成	中学校指導計画の作成	中学校指導計画の作成	作成完了	作成完了
主な事業	○「千葉市版年間指導計画」の作成 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを考慮した指導計画を作成し、「確かな学力」の育成を図る。				

¹ 平成 23 年度から小学校、平成 24 年度から中学校で全面実施された。基本理念は、教育基本法改正などで明確になった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成し、道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成することとされており、国語・社会・数学・理科・外国語・保健体育の授業時数を実質 10%程度増加させるなどの変更が行われる。

² 文部科学省が告示する教育課程の基準のこと。小学校、中学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校の各学校と各教科で実際に教えられる内容とその詳細について、学校教育法施行規則の規定に基づき定めている。

②確かな学力の育成に向けた「わかる授業」の推進

学校二学期制の下、子どもたちに基礎・基本を確実に身に付けさせ、学力の向上を図るため、「わかる授業」の推進、確かな学力の育成に向けて、総合的な施策を推進します。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
「学校の勉強が好きだ」と肯定的に回答する児童生徒の割合 (上：小学 5 年生、下：中学 2 年生)	75% 46%	78% 48%	74% 50%	80% 50%	80% 50%
主な事業	○千葉市児童生徒意識調査の実施と活用 千葉市児童生徒意識調査を通して、児童生徒の学習状況、学習に対する意識、学習意欲、学習習慣および生活習慣の実態を把握し、学習指導上の課題や改善点を明らかにし、「わかる授業」を推進します。 ○少人数学習指導教員の配置³ 原則、小学校 3 年生に対し、学習の基礎・基本の確実な定着に向けたきめ細かな指導を行うため、少人数学習指導教員を配置するとともに、より効果的な配置のあり方について検討を進めます。				

③国語力の向上

「読む」「書く」「聞く」「話す」といった言語活動の充実を図り、学びの基礎となる「考える力」や「感じる力」、「想像する力」、「表す力」をより一層伸ばします。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
児童生徒の一人あたり 2 週間の平均読書冊数 (上：小学生、下：中学生)	15 6	15 7	15 6	15 6	15 8
1 週間にどのくらい読書をするかに対して「読まない」と回答する児童生徒の割合 (上：小学 5 年生、下：中学 2 年生)	19% 17%	15% 13%	18% 18%	17% 17%	10% 10%
主な事業	○学校図書館指導員による読書活動の充実推進⁴ 全小・中学校に配置された学校図書館指導員が、児童生徒の豊かな読書活動を推進します。児童生徒への適切な図書の紹介や図書館の環境整備、読み聞かせ等の取組を行います。				

³ 少人数学習とは、少人数による学習集団を編成し、個に応じたきめ細かな指導の実現を目指す学習方法。

⁴ 児童生徒の豊かな読書活動の推進や、学校図書館の環境を整備するために、本市独自に、全小中学校に配置している指導員。

④理数教育の充実（「理科、算数・数学好き」児童生徒の育成）

児童生徒の科学的な見方や考え方の基礎を養い、科学技術の進歩に対応した理数教育を推進するため、自然事象や科学、算数・数学への興味・関心を高める理数科授業の一層の充実を図ります。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
「理科の勉強が好き」と肯定的に回答する児童生徒の割合 (上：小学 5 年生、下：中学 2 年生)	89% 64%	90% 65%	88% 71%	90% 70%	90% 70%
「算数・数学の勉強が好き」と肯定的に回答する児童生徒の割合 (上：小学 5 年生、下：中学 2 年生)	76% 56%	78% 58%	67% 56%	78% 59%	78% 60%
【参考】全国で、算数の勉強が好きと答える小学生は 64%、数学の勉強が好きと答える中学生は 54%(平成 22 年度全国学力・学習状況調査より)					
科学館を授業の一環で利用する市内小学校の割合	83%	92%	86%	92%	100%
主な事業	○理科支援員の配置 小学校 5・6 年生の理科学習における観察・実験活動等を充実するため、理科支援員を配置します。教員経験者等の理科支援員が、観察・実験の準備、授業の支援のほか、学習環境の整備や教材開発等の支援を行います。 ○科学館を活用した授業の展開 展示やプラネタリウムを利用した学習、実験室を活用した学習等、学校では体験できない機会を提供します。				

(2)学びを深め、広げる教育の推進

⑤児童生徒による学習成果発表の充実

児童生徒による日常学習成果の発表を通して、制作意欲の向上を図るとともに、進んで自己表現する力をはぐくみ、伸ばします。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
「絵をかく会」「総合展」への参加校	全小・中・特別支援学校による参加	全小・中・特別支援学校による参加	全小・中・特別支援学校による参加	継続	継続
主な事業	○絵をかく会の開催 絵画の制作を通して、主体的に自己の表現力を高めるとともに、お				

	互いの作品の良さを認め、共感し合える児童生徒の育成を推進します。 ○総合展の開催 各教科等（科学、図画工作、美術、家庭、技術・家庭、書写、特別支援教育）における日常の学習成果の発表を通して、学習への興味・関心と技能をより一層高めます。
--	--

⑥情報教育の充実・推進

情報教育機器等の活用を通して、子どもたちの情報活用能力の育成を図ります。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
各中学校区の情報教育支援員 (ボランティア含む)の配置率	9 %	5 %	5 %	5 %	50%
各学校の学校 C I O 育成率	17%	25%	25%	50%	100%
学習コンテンツを利用する学校 の割合	65%	100%	75%	100%	100%
千葉市独自の情報モラル教育 カリキュラムを実践した学校の 割合 ⁵	45%	100%	71%	100%	100%
主な事業	○学校 C I O の育成 教育の情報化を進めるための統括責任者としての学校 C I O を、各学校に育成します。 ○学習コンテンツの開発と活用 学校の情報化を推進するため、地域の特性を生かした各教科等の学習コンテンツを開発します。 ○情報モラル教育の推進 情報モラル教育カリキュラム（カリキュラム・情報モラルコンテンツ・指導教材・実践事例）を作成し、すべての小・中学校において、インターネットや携帯電話による人権の侵害に関する指導等を実施するとともに、情報リテラシーの定着に向けた取り組みを進めます。				

⑦科学館・図書館・博物館等の活用

学びへの動機付けと幅広い知識の取得に向け、科学館や図書館、博物館、美術館、埋蔵文化財調査センター等を活用した、さまざまな授業展開を進めます。

⁵ 情報社会を生き抜き、健全に発展させていく上で身に付けておくべき考え方や態度、およびネットワーク上で生じるさまざまな危険に的確に対処できる判断力などを養う教育。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
科学館を授業の一環で利用する市内小学校の割合	83%	92%	86%	92%	100%
主な事業	○科学館を活用した授業の展開 展示やプラネタリウムを利用した学習、実験室を活用した学習等、学校では体験することができない機会を提供します。				

⑧学校図書館機能の整備・充実

学校図書館における図書検索システムや図書館図書閲覧システムの整備・充実等により、調べ学習や読書活動のさらなる充実を図ります。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
団体貸出用資料の貸出冊数 (学校専用貸出及び団体貸出の計)	20,731	21,000	23,094	23,500	25,000
主な事業	○図書館図書の団体貸出の推進 学校での調べ学習や朝読書等に必要な資料を収集し、提供するとともに、図書館のホームページで団体貸出用資料一覧の閲覧やレファレンスサービスの充実に努めます。				

3 平成 23 年度の評価および今後の課題に対する対応方針

(1)学ぶ意欲と確かな学力をはぐくむ教育の推進

○知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成について、小・中学校の新学習指導要領の円滑な実施のための、教育課程説明会の開催、千葉市版年間指導計画の作成により周知徹底に努めた。

○原則、小学校 3 年生を対象に少人数指導の効果が期待されており、引き続き少人数学習指導教員の効果的な配置に取り組む。

(2)学びを深め、広げる教育の推進

○情報モラルに関する指導は、児童生徒の発達段階に応じた学習項目に位置づけられており、すべての学校が取組を進めている。なお、千葉市独自の情報モラルカリキュラムについては、関連資料を系統的に配分した内容がイントラネット上で活用できるようになっており、各学校での更なる指導の充実を目指していく。

○科学館の団体利用のプログラムの紹介や、学校関係者への利用説明会の実施等、学校の利用促進を図り、理科学習に意欲的に取り組む児童生徒の育成に貢献している。

○千葉市図書館ホームページに「こどものページ」を開設し、図書館利用や資料情報検索が分かりやすくできるよう努めた。また、子どもたちの調べ学習について、学校と連携して、一人一人に対応する支援を行った。

○児童生徒の日頃の学習成果発表の機会を多く設け、学習意欲の向上を図った。

基本施策1－2 社会性を備えた豊かな心をはぐくむ

1 概要

- 道徳教育等を通して社会性や豊かな人間性を育てる教育に力を入れていくことにより、子どもに社会の形成者としての自覚と責任感を持って行動する力を身に付けさせていきます。また、地域等との連携を図りつつ、さまざまな体験活動等を通し、自然や生命の大切さを学び取れるようにするとともに、人を思いやる心や人とのかかわる力をはぐくんでいきます。
- キャリア教育の充実により将来の生き方を考える力を身に付けさせるとともに、読書活動のさらなる充実を通して豊かな心をはぐくんでいきます。

2 成果指標

(1) 命を大事にする心や思いやりの心をはぐくむ教育の推進

① 各種体験学習の推進

農林業やボランティア活動等、各種体験活動を通じて、自主性を養うとともに、人や自然とかかわることにより、社会性や思いやりを持てる子どもたちを育成します。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
「係活動等責任を持って行っている」と回答する児童生徒の割合（上：小学 5 年生、下：中学 2 年生）	88% 85%	88% 86%	86% 90%	88% 86%	88% 86%
職場体験学習を実施する中学校の割合	100%	100%	100%	100%	100%
職場体験学習を 3 日以上実施する中学校の割合	79%	83%	81%	83%	95%
主な事業	○農山村留学の実施 小学 6 年生を対象に、長野県または県内で農山村留学を実施し、農林業の体験活動や多くの人たちとの交流等を通して、自主性・社会性を養います。 ○小・中学校におけるキャリア教育の推進 児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために、必要な意欲・態度や能力を育てる教育活動を推進します。また、自己の進路を主体的に考え、適切な進路選択ができるよう、職場体験等、将来の生き方を考えるキャリア教育を実施し、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを推進します。				

②道徳教育の充実

人とのかかわりや社会体験等、さまざまな体験活動などを通して、道徳的な心情や判断力、実践する態度など、道徳的実践力を育て、人間尊重の精神をはぐくみます。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
「人が困っているときは、進んで助けている」と回答する生徒の割合	79%	80%	未実施 ⁶	82%	90%
千葉市独自の情報モラル教育カリキュラムを実践した学校の割合	45%	100%	71%	100%	100%
主な事業	○人権教育の推進 自他の人権を尊重し、思いやりの心を持って公正・公平にふるまい、差別のない望ましい人間関係をはぐくむ児童生徒を育成するため、人権教育担当者研究協議会や管理職特別研修会を通して、学校教育における人権教育の充実を図ります。 ○道徳教育用教材の作成 本市独自の道徳教育用教材の作成に取り組んでいます。				

③いじめ等問題行動への対応

不登校やいじめ等の悩み・不安に対して教育相談を実施することにより、その解消を図ります。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
全児童生徒数に対する不登校児童生徒数の割合（上：小学生、下：中学生）	0.28% 2.79%	0.20% 2.65%	0.31% 2.56%	0.25% 2.50%	0.20% 2.50%
【参考】全国（国公私含め）では、小学校で 0.32%、中学校で 2.74%（出典：文部科学省「平成 22 年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」）					
教育センターでのグループカウンセリング活動に参加した児童生徒のうち、学校復帰に向けた改善が図られ、教育相談指導教室に入級できた児童生徒の割合	44%	46%	55%	50%	50%
相談対応件数（スクールカウンセラー ⁷ ）	20,876	19,500	19,915	19,000	18,500

⁶ 全国学力・学習状況調査とともに実施される質問紙調査が、東日本大震災のため、平成 23 年度は実施されなかった。

⁷ 児童生徒のもつさまざまな悩みの解消に向けて、学校内の相談室を中心に相談活動および保護者や教職員に対する助言などを行う、臨床心理に関する専門的な知識・経験を有する臨床心理士など。

いじめの解消率 (上：小学校、下：中学校)	76.2% 69.2%	82.0% 70.0%	76.6% 80.7%	82.0% 81.0%	95% (22 年度目標)
【参考】いじめの解消率は、全国の公立小学校で 81.7%、公立中学校で 76.8%。(出典:文部科学省「平成 22 年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」)					
主な事業	○不登校やいじめに関する教育相談の実施 不登校やいじめ等教育全般にわたる悩みを持つ児童生徒や保護者、教職員等の相談に応じます。 ・教育相談ダイヤル 24 ・教育センターの電話相談、来所相談（個別相談・医療相談・グループ活動）、家庭訪問相談 また、各相談機関との連携を図り、相談活動の一元化を目指します。 ○ネット上のいじめへの対応 情報モラル教育を推進するとともに、教職員を対象としたインターネット等の利用に関する研修の充実を図ります。また、インターネット社会における危機管理意識や子どもの携帯電話の取り扱いなどについて、保護者への啓発を図るとともに、関係機関等との連携を強化していきます。 ○生徒指導特別対策委員会、生徒指導調査研究委員会の設置 不登校やいじめ等の問題行動について、健全育成課や青少年サポートセンター等関係機関との連携を図り、学校への支援を強化しています。また、各調査研究に基づく、実践事例の活用についてまとめています。				

(2)夢や希望をはぐくむ教育の推進

①将来の生き方を学ぶキャリア教育の推進⁸

一人一人の子どもたちの個性の伸長を図りながら、社会的資質や態度を形成し、主体的に将来の生き方を考えることができる力をはぐくみます。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
職場体験学習を実施する中学校の割合	100%	100%	100%	100%	100%
職場体験学習を 3 日以上実施する中学校の割合 ⁹	79%	83%	81%	83%	95%

⁸ 「キャリア」という用語は、生涯にわたる経歴、専門的スキルを要する職業についているなど、その解釈・意味付けは多様だが、「キャリア教育」という場合には、「生き方そのもの」という意味で使われる。「キャリア教育」とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育をいう。

⁹ 生徒が事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事の実際について体験したり、働く人々と接したりする学習活動。

【参考】全国の公立中学校で、職場体験学習を実施している率は、96.9%。全学校で実施している政令市は、千葉以外に、相模原、静岡、京都、神戸、岡山、福岡の6都市。（出典：国立教育政策研究所「平成 23 年度職場体験・インターンシップ実施状況調査」）

主な事業	○小・中学校におけるキャリア教育の推進 児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために、必要な意欲・態度や能力を育てる教育活動を推進します。また、自己の進路を主体的に考え、適切な進路選択ができるよう、職場体験等、将来の生き方を考えるキャリア教育を実施し、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを推進します。
------	---

②郷土の歴史と文化等を学ぶ機会の充実

郷土の歴史や文化についての理解を通し、千葉市民としての誇りや自信、郷土への愛着心をはぐくみます。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年 度 目標	目標値 (27 年度)
埋蔵文化財調査センターの出前講座を利用する学校数(延べ数)	47	57	57	60	95
主な事業	○地域教材の作成と活用 児童生徒が、身近な地域である郷土千葉市の地域学習に主体的に取り組むことができるよう、社会科の補助教材を作成します。 ・小学校補助教材「わたしたちの千葉市」の作成 ・中学校補助教材「伸びゆく千葉市」の作成 ○ふれあいパスポートの発行配布 市内に在住・在学する全小・中学生に「ふれあいパスポート」を配布し、市内の社会教育施設やスポーツ施設等を無料または割引価格で利用できるようにし、子どもたちの学校外活動と夢づくりを支援します。施設の利用日については、現在土曜日を基本としていますが、今後拡充に努めます。				

③国際人を育てる国際理解教育の推進

外国語指導助手等による英語活動・語学指導を充実させ、国際化の進展に応じた国際理解教育を推進するとともに、コミュニケーションを図る能力や態度の育成に努めます。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
「英語の勉強が好き」と肯定的に回答する生徒の割合（中学 2 年生）	66%	64%	61%	64%	70%
「英語活動が楽しい」と肯定的に回答する児童の割合（小学 5 年生）	93%	93%	96%	96%	96%
主な事業	○小学校英語活動の推進 外国の文化や生活習慣に親しむ体験的な外国語活動を通して、児童に豊かな国際感覚を身に付けさせるとともに、異文化理解の推進、コミュニケーション能力の育成を目指します。 ○外国人講師の配置 全中学校・高等学校に外国人講師を配置し、英語のコミュニケーション能力の向上を目指します。				

④国際交流の推進

海外の学校や市内のインターナショナルスクール¹⁰との交流活動を行うことで、異文化理解を深めます。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
海外の学校との交流活動を実施している学校数	20	25	20	25	30
主な事業	○姉妹友好都市との交流 海外の同等校と姉妹校・交流校提携を結び、相手校と児童生徒の作品や手紙などの交換を行うことで、相互の異文化理解を深めます。				

(3)豊かな情操をはぐくむ教育の推進

①読書活動の充実と読書習慣の定着

学校図書館指導員による個に応じた適切な図書のアドバイス等を通して、読書を楽しむ習慣の形成を図るとともに、読書活動のための図書館環境を充実させ、生きる力につながる豊かな心の育成を図ります。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
児童生徒の一人あたり2週間の平均読書冊数（上：小学生、下：中学生）	15 6	15 7	15 6	15 6	15 8

¹⁰ 多様な国籍、民族の学生・学習者のための教育機関。狭義では、特定の国に依存しない教育課程を用い、初等教育や中等教育を行う教育機関のみを指すこともある。

1週間にどのくらい読書をするか に対して「読まない」と回答する児 童生徒の割合（上：小学5年生、 下：中学2年生）	19% 17%	15% 13%	18% 18%	17% 17%	10% 10%
【参考】全国では、ひと月あたりの読書数は、小学生が約 10 冊、中学生が約4冊、ひと月に 本を読まない子どもは、小学生が 6.2%、中学生が 16.2%となっている。 （出典：2011 年全国学校図書館協議会「第 57 回読書調査」）					
主な事業	○朝読書の推進 豊かな心の育成及び読書の習慣化を図るために、朝読書を推進しま す。				

②図書館との連携推進

図書館と連携し、調べ学習や読書活動の充実を図ります。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
団体貸出用資料の貸出冊数 （学校専用貸出及び団体貸出 の計）	20,731	21,000	23,094	23,500	25, 000
子ども読書まっりの参加人数	6,841	6,900	8,399	6,900	6, 900
主な事業	○図書館図書の団体貸出の推進 学校での調べ学習や朝読書等に必要な資料を収集し、提供すると ともに、図書館のホームページで団体貸出用資料一覧の閲覧やレフ ァレンスサービスの充実に努めます。 ○子ども読書まっりの実施 学校や地域との協働により、子どもたちが読書に興味・関心を持 つことができるように、アトリウムおはなし会や外国語のおはなし 会等、各種イベントを実施します。				

③芸術文化等に親しむ活動の充実

優れた音楽や舞台芸術の鑑賞等を通して、子どもたちの豊かな感性と創造性をはぐく
みます。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
オーケストラコンサート参加 人数	4, 000	4, 300	4, 300	4, 500	4, 900
主な事業	○小・中学校音楽鑑賞教室、オーケストラコンサートの開催 小・中学生を対象に「小・中学校音楽鑑賞教室」、「小・中学生のた めのオーケストラコンサート」を実施し、多くの児童生徒が芸術文 化を鑑賞することにより、児童生徒の情操の涵養を図るとともに、 音楽文化の振興と児童生徒の健全育成を推進します。				

3 平成 23 年度の評価および今後の課題に対しての対応方針

(1) 命を大切に作る心や思いやりの心をはぐくむ教育の推進

- 体験活動については、小学校 5 年生で移動教室（3 日）、小学校 6 年生で農山村留学（4～5 日）、中学校 2 年生で自然教室（4 日）を行うなど、推進している。こうした体験活動による効果測定の結果からは、社会性の向上や意欲や達成感が高まること等が確認されている。特に、長野県での農山村留学においては実施 1 か月前と 1 か月後の意識調査を行い、「わがままを言わずにやり通す」「誰とでも気軽に話す」「新しい友達をつくることできる」といった点が向上している。
- 情報モラル教育の推進のための環境が整い、すべての小・中学校で情報モラル教育カリキュラムの活用を実施することができるようになった。
- 道徳教育用教材を作成し、学校・家庭・地域が一体となって教育にかかわる指導の充実を図っている。
- 全中学校にスクールカウンセラーを配置し、児童生徒の悩みの解消・軽減を図り、保護者、教職員等への助言・援助を行った。
- 「地域ぐるみの学校安全体制整備推進地域」における「サイバー犯罪防止教室」を開催している。

(2) 夢や希望をはぐくむ教育の推進

- 生徒の勤労観、職業観を育て、社会的・職業的自立を目指すため、中学校における職場体験を推進している。着実に取り組みは定着しつつあるが、地域住民や事業所等に対する広報活動などにより、職場体験の受入先について、一層の連携協力を推進する必要がある。「キャリア教育推進会議」において、諸課題の解決を図っている。

(3) 豊かな情操をはぐくむ教育の推進

- 学校図書館指導員による「読み聞かせ」「ブックトーク」「読書相談」「朝読書」等の積極的な支援などを通じ、「児童生徒の 2 週間の読書量」は引き続き良好である。
- 小中学校では、授業やイベントを通して感性や情緒をはぐくむためのさまざまな読書活動を行っている。
- 次代を担う子どもの文化芸術体験では、オーケストラ（2 校）、児童劇（1 校）、ミュージカル（1 校）など、計 7 校で公演を実施した。

基本施策 1-3 体力を高め、健康な体をはぐくむ

1 概要

- 遊びの楽しさを幼児期から感じ取らせるとともに、運動の特性に触れる楽しさや喜びを十分味わうことのできる教育を充実させることにより、運動への意欲を一層高め、体力を高めていきます。また、家庭との連携をもとに健康教育や食育などを通して、健康の保持増進に主体的に取り組む姿勢をはぐくんでいきます。

2 成果指標

(1)体力向上の推進

①体力づくりの推進

子どもたちの体力・運動能力の実態を踏まえ、運動の楽しさを味わうことのできる授業や運動部活動を展開し、子どもたちの主体的な基礎体力づくりを支援します。

また、子どもたちが体を動かす場や機会を確保する観点から、地域における身近な遊び場の整備を図ります。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
県運動能力証の合格率 (上：小学生、下：中学生)	25.9% 24.1%	26.2% 24.7%	25.4% 23.6%	26.5% 25.0%	27.5% 27.0%
新体力テストにおいて、各学年・種目で全国平均を上回る割合	93%	94.4%	90.3%	95.0%	100%
行政区に対する総合型地域スポーツクラブの設立数の割合 ¹¹	100%	100%	100%	事業完了	100%
主な事業	○新体力テスト¹²、県運動能力証¹³、市運動能力検定¹⁴の実施 新体力テスト、県運動能力証、市運動能力検定（小学校のみ）により、体力づくり活動の状況を把握し、国や県との比較、年次推移等から子どもの体力について考察し、体育指導の充実等に生かします。 ○中学校運動部活動指導者の派遣 中学校の運動部活動において、専門的な指導を十分に受けることができるように、学校で必要とする民間指導者を派遣します。 ○地域スポーツ人材の活用実践への支援 子どもたちが運動の楽しさをより深め、体力づくりに積極的に取り組んでいけるよう、体育・保健体育の学習や運動部活動において、指導の補助ができる地域人材の派遣を行います。 ○ 総合型地域スポーツクラブの設立支援 子どもから高齢者まで、年齢や性別に関係なく個々のライフスタイルに応じたスポーツ活動を楽しむことができる「総合型地域スポーツクラブ」について、各区に設立されるよう支援します。				

¹¹ 主にヨーロッパ諸国などに見られる地域のスポーツクラブの形態で、地域において、子どもから高齢者、障害者までを含む、さまざまなスポーツを愛好する人々が参加できる、総合的なスポーツクラブ。

¹² 児童期から高齢期における国民の体力・運動能力の現状を明らかにするため実施している 8 種目の体力・運動能力調査。

¹³ 千葉県が小学校 5・6 年生児童および中学、高校の全生徒を対象に 8 種目の運動検定を実施し、各記録が一定の水準に達する者に対して交付する合格証。

¹⁴ 小学校 5・6 年生の児童を対象に、5 つの運動種目について、千葉市独自の達成基準を設け、達成状況により A 級、B 級、C 級の合格証を交付する検定。

(2) 健やかな体の育成

① 健康教育の推進

子どもたちの健康増進を図るため、子どもたちが健康の大切さを認識し、自ら健康な身体づくりに取り組めるよう、健康教育を推進します。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
12 歳(中学 1 年生)の DMF 指数(永久歯の一人あたりの平均虫歯指数)	1.12	1.11	1.19	1.10	1.00
主な事業	○歯と口の健康づくりの推進 歯科衛生士による各学校巡回の口腔衛生指導、歯科医師会による歯と口の健康づくり啓発、学校歯科保健活動推進校の表彰や図画・ポスター・8020 標語の募集等を通じて、子どもたちが自分の口腔内に関心を持ち、生涯を通して歯と口の健康づくりを実践していく基礎を作ります。				

② 食育の推進¹⁵

子どもたちが日常生活における食事について正しい理解を深め、望ましい食習慣を身に付け、健全な食生活を営むことができるよう、食に関する指導を推進します。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
朝食を必ず食べる児童生徒の割合	89.4%	90.7%	90.5%	90.7%	92.0%
【参 考】	○全国では、小学生 90.5%、中学生 86.6%が朝食を毎日食べている。(出典:独立行政法人日本スポーツ振興センター「平成 22 年度児童生徒の食生活実態調査」) ○千葉市の学校給食実施率(平成 22 年度学校給食実施状況等調査) 小学校 100%(全国平均 99.2%) 中学校 100%(全国平均 85.4%)				
主な事業	○子どもの健康をはぐくむ総合食育の推進 家庭・地域への啓発、食育啓発資料の作成など、学校・家庭・地域が連携しつつ、子どもたちに望ましい食習慣等を身に付けさせる食育を推進します。				

3 平成 23 年度の評価および今後の課題に対しての対応方針

(1) 体力の向上

○新体力テストの結果は、概ね良好な状況にあるが、特定の種目で課題がみられた。体育等の学校における取り組みについて、学校等における子どもの体力の向上に関する検証の際に、運動習慣等を含む実態把握を再度行うなど、子どもの体力の向上を図る取り組み

¹⁵ 食に関する適切な判断力を養い、生涯にわたって健全な食生活を実現することにより、心身の健康の増進と豊かな人間形成に資することを旨として行われる教育。

みを一層推進することが必要である。

- 運動部活動指導者派遣事業や地域スポーツ人材派遣事業において、外部指導者を必要とする学校に対応した。
- 他都市では、過去に、プールの排水口の蓋の固定が不十分であったことによる事故が発生したことがある。千葉市では、国や県からの通知を受け、入水前には必ず排水口の安全を確認し、事故の防止に努めている。なお、市内学校プールの全てで平成 19 年度の水泳学習前までに吸い込み金属の取り付けと排水口の蓋のボルト等を固定する修理を完了し、その後も毎年の水泳指導開始前の清掃時に確実に固定されていることを確認している。

（2）健やかな体の育成

- アレルギー疾患のある児童生徒のうち、学校においてアナフィラキシー症状を呈する可能性のある児童生徒に対して、適切な対応が行えるよう、消防局および医療機関等の関係機関と連携を図っている。
- 口腔衛生指導および歯と口の健康づくり啓発事業を継続して実施してきたことから、12 歳の DMF 指数が目標値に近づいてきている。目標達成に向けて、今後、小学生への啓発活動に重点をおくことが必要である。

基本施策1－4 家庭の教育力を高め、地域の教育力を活かす

1 概要

- 地域や学校、行政によるさまざまな働きかけを通して、家庭において、親子のふれあいを大切にしながら、子どもに自立の基礎となる基本的な生活習慣を身に付けさせるようにします。
- 社会生活や集団生活を営む上で必要なルールやマナーの定着は、学校教育のみならず家庭や地域における取り組みによるところが大きいことから、子どもへの声かけやあいさつ、親子交流活動等を推進することにより、学校と家庭、地域が一体となって、子どもに規範意識や社会性をはぐくんでいけるようにします。
- 地域人材などを活用した学校支援など、地域ぐるみの教育を一層推進していきます。

2 成果指標

（1）家庭の役割と機能を再確認するための方策推進

①家庭への支援

家庭の教育力の向上に向け、家庭における子育てについてのさまざまな悩みや相談への対応を行います。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
子育てサロンが行う子育て相談への参加者数（延べ数）	2,198	2,100	2,150	2,200	2,500
主な事業	○地域における家庭教育支援の基盤形成 子育てサポーターや民生委員等の地域の人材で構成された「家庭教育支援チーム」を中心に、地域で子育て講座や相談活動を実施します。				

(2) 地域の教育力を活用した家庭・学校への支援の充実

① 放課後等の子どもの居場所づくり

小学校の施設などを活用し、放課後等に子どもたちにさまざまな体験活動などの機会を提供します。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
放課後子ども教室の年間延参加児童数	107,795	127,049	101,731	150,000	174,000
地域の大人に挨拶をしたり、話すようになったりした参加児童の割合	59.3%	59.0%	58.9%	60%	60%
異なる学年の児童と遊ぶようになった参加児童の割合	40.2%	41.5%	39.9%	42%	45%
公民館の小・中学生の学習者数(延べ数)	24,700	25,000	21,800	25,000	48,000
主な事業	○放課後子ども教室の推進 小学校の施設を活用して、放課後の子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の多様な人々の参画を得て、さまざまな体験・交流活動などを実施する「放課後子ども教室」の取り組みを全小学校で推進します。 ○公民館での子どもたちの学習や活動の場の確保 公民館の施設を活用し、公民館主催講座のほか、地域やクラブ・サークル等の協力を得て、週末の子どもたち（小・中学生）に学習や活動の場を提供するなど、子どもの居場所づくりに努めます。				

② 地域人材を活用した学校支援

学校外の社会人の指導力を学校教育の場に積極的に活用し、授業や部活動等において専門的な指導を充実させ、学校教育の活性化を図ります。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
学校・家庭・地域連携によるまちづくり推進事業への参加者数 (延べ数)	68,554	69,000	71,570	72,000	72,000
主な事業	○学校・家庭・地域連携によるまちづくりの推進 学校・家庭・地域の連携により、各地域の特色ある地域活動を推進し、子どもたちの地域に対する愛情をはぐくみます。				

③子どもの安全を見守る活動の推進

地域との連携・協力のもと、学校セーフティウォッチャー¹⁶による子どもたちの登下校の見守り活動やスクールガード・アドバイザーの巡回指導を行うなど、地域ぐるみの学校安全体制の整備推進を図ります。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
学校セーフティウォッチャーの登録者数	20,600	21,000	23,100	23,400	24,000
セーフティウォッチャーが活動している小学校の数	全校で実施	全校で実施	全校で実施	継続	全校で実施
主な事業	○学校セーフティウォッチャーの推進 学校セーフティウォッチャーによる登下校の安全の見守りや講習会の実施、スクールガード・アドバイザーによる巡回指導を実施します。				

3 平成 23 年度の評価および今後の課題に対しての対応方針

(1) 家庭の役割と機能を再確認するための方策推進

- 公民館における子育て支援を実施する子育てサポーターに対するスキルアップ講座を開催した。引き続き、スキルアップ講座を実施する。
- 子育てに関する情報提供は、情報誌の発行やインターネット上での掲載を行うことにより、成果をあげているが、情報を必要とする人々に必ずしも届いていない課題がある。
- 子育てサポーターを 1 区あたり 3 人から 4 人に増員し、子育て相談・交流や仲間づくりの回数や支援活動の充実を図る。
- 地域協力者会議等を定期的で開催し、保育所、学校や保健福祉センター等の関係機関への周知、情報提供を行う。

(2) 地域の教育力を活用した家庭・学校への支援の充実

- 放課後子ども教室は、全小学校で実施し、「地域の大人に挨拶をしたり、話すようにな

¹⁶ 児童生徒の登下校の安全を強化するために、登下校の時間帯に見守り活動を行っていただく安全ボランティアの方のこと。申込みは、近隣の学校で、随時受け付けている。

ったりした参加児童の割合」、「異なる学年の児童と遊ぶようになった参加児童の割合」は、概ね前年と同様となっており、地域の教育力に支えられた放課後の児童の居場所づくりが進んでいる。

○学校セーフティウォッチャーの登録数は23,100人を超え、23年度の目標値を上回った。さらに登録数を増やすとともに、児童・生徒に係る防犯情報や効果的な見守り活動のあり方などを内容とした講習会（3回）を充実させる。

○学校・家庭・地域連携によるまちづくりの推進では、児童生徒や地域関係者の多数の参加により、「地域花いっぱい運動」「地域清掃」等に取り組んだ。

基本施策1－5 子どもの学びを支える教育環境を整える

1 概要

○学校適正配置の推進や施設設備の整備などにより、子どもが、安全な環境のなかで安心して学べる教育環境を整えていきます。また、幼保小連携教育や小中一貫教育をはじめとする学校間や学校種（例：幼稚園、保育園と小学校、小学校と中学校）間の連携による教育の充実等、学びや自立の基礎を確立するとともに、魅力ある学校づくりに向けた取り組みを推進していきます。

2 成果指標

(1)学校施設等の整備・充実

①学校施設・設備等の整備

校舎の耐震補強や改築、情報教育機器の整備等を計画的に推進し、子どもたちが安心して学び、充実した活動ができるよう教育環境の整備を図ります。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
学校施設の耐震化の割合（耐震化率）	70%	73%	74%	83%	26 年度に 100%
【参考】 平成 23 年 4 月における、全国の耐震化率は、80.3%。政令市では、19 市中 15 位。					
普通教室 2 台、特別教室 6 台の 配備に向けた LAN 用コンピュ ータの整備状況	50%	50%	48%	48%	100%
主な事業	○校舎・屋内運動場等の耐震補強 耐震性が不足している校舎・屋内運動場の耐震補強を行い、学校施設の耐震化を図ります ○校内 LAN の整備・充実				

	すべての学校の普通教室・特別教室において情報機器を活用した学習が行えるよう校内 LAN の整備を進めます。
--	---

②学校の安全対策の充実

子どもたちが安全に教育活動を行える環境整備を進めるとともに、防犯教育や避難訓練の実施など、安全対策の強化を図ります。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
不審者侵入に対する防犯訓練を実施する学校	全 市 立 学 校 で 実施	全 市 立 学 校 で 実施	全 市 立 学 校 で 実施	継続	継続
主な事業	○防犯設備の整備 各学校に配備している、さす股やネットランチャー等の防犯用具を補充するとともに、防犯カメラの設置については、その効果を十分に検証し、今後の拡充について検討します。 ○防犯等安全対策の推進 学校における不審者対策については、学校に対してマニュアルを配布しています。また、学校では、常日頃から訓練を行い、児童生徒の安全を確保することに努めているところです。なお、市内の小中学校すべてで、マニュアルに沿った取り組みが行われています。 さらに、各学校で実施する防犯教育や不審者侵入を想定した避難訓練をはじめ、緊急時の保護者等への連絡体制の整備がより充実するよう情報や資料の提供に努めるとともに、学校や関係課と連携して通学路の整備を進めるなど、安全対策を強化します。				

③学校の適正配置の推進

学校規模の大小による教育環境の不均衡を是正するとともに、小規模校化や大規模校化によって生じる教育上・学校運営上の諸問題を解消することにより、子どもたちの教育環境の公平性を確保し、よりよい教育環境の整備と教育の質の充実を図ります。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
学校適正規模校の割合 (上：小学校、下：中学校)	— —	56% 50%	56% 50%	59% 52%	63% 55%
主な事業	○小規模校化への対応 各学校の立地形態の区分ごとに、統合等により適正配置を推進します。また、統合校については、通学路の安全確保、学校施設の整備、教員等の加配などにより、教育環境の充実を図ります。 ○大規模校化への対応 隣接する学校との通学区域の調整等により、適正配置を推進します。				

(2)教育環境の改善と特色ある学校づくりの推進

①地域特性を生かした特色ある学校づくりの推進

地域の状況に応じた総合的な学習の時間や体験的な学習等、各学校の創意工夫を活かした特色ある教育活動を推進します。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
特色ある学校づくりを展開する学校	全市立 学校で 実施	全市立 学校で 実施	全市立 学校で 実施	継続	継続
主な事業	○特色ある学校づくり予算の充実 各学校の自主性・自律性を確立するため、学校の裁量で執行可能な予算を措置することにより、各学校の創意工夫を生かした特色ある教育活動を支援します。				

(3)学びの連続性を重視した教育の推進

①学校間・学校種間の連携の推進

教員の交流を活かした児童生徒の指導など、学校間の連携強化を推進します。また、幼稚園・保育所（園）と小学校間、小学校と中学校間等、校種間における教育課程の効果的な接続などについて調査・研究を行い、幼少期からの学びの連続性の充実を図ります。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
小中一貫教育の推進	—	小中一貫教育カリキュラムの策定検討	小中一貫教育カリキュラムに着手（5教科）	小中一貫教育カリキュラムの策定（5教科）	小中一貫教育カリキュラムの策定（5教科）
主な事業	○小中連携教育の推進 小・中学校の接続に配慮した教育の推進について研究します。 ○小中一貫教育の推進 小中学校の学びの連続性を重視した教科カリキュラムを策定し、小中一貫教育の推進を図ります。				

3 平成 23 年度の評価および今後の課題に対する対応方針

(1) 学校施設等の整備・充実

○校内 LAN の整備、各学校図書館へのコンピュータ整備により、児童生徒 9.5 人に 1 台のコンピュータが整備され、統廃合校等一部の学校を除く各学校の特別教室を含むすべての教室でコンピュータ機器を活用した授業を実施することが可能となった。

- セキュリティが確保された安全な環境の中で、成績処理や通知表・指導要録等の校務処理がシステム化されるなど、校務の効率化が図られ、教職員が児童生徒に向き合う時間がより確保される環境が整った。
- 電子黒板は、3 分の 2 の学校が授業で活用し、書き込みや拡大提示といった機能を利用している。教職員の研修を年 2 回実施、授業での活用、わかる授業づくりに努めている。
- 学校施設の危険個所については、教育委員会および学校によって、不断の注意をもって把握に努めているところである。

(2) 教育環境の改善と特色ある学校づくりの推進

- 小規模校化への対応では、第 2 次学校適正配置実施方針に基づき、「高浜地区」で「統合準備会」において準備を進め 24 年度の統合新設に向けて準備を進めた。
- 「磯辺地区」では、小学校 3 校と中学校 2 校の統合が決定し、「幸町地区」では、小学校 2 校の統合が決定し、それぞれ統合準備会を立ち上げた。地元の合意形成を基本に、今後も通学路の安全、学校施設の整備、加配教員の配置等の方策を検討する。

(3) 学びの連続性を重視した教育の推進

- 23 年度は「1 小 1 中学区における連携の在り方」について、更科小学校、更科中学校において研究を進めてきた。「小中が連携した行事及び学習活動の工夫」について研究を深め、互いの良さに気付く活動を通して、義務教育 9 年間を見通した学習指導や社会性の育成、体力の向上、環境整備などの面での研究成果が上がっている。
- 今後は踏まえるべき視点を明確にした小中一貫教育校用カリキュラムの作成を推進する。（教育センターで実施）
- 改訂された小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針に盛り込まれている幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向け、幼・保・小の連携や相互理解を深める事業を、13 の小学校を指定して、研究を行った。
- 市立高等学校改革の評価検証に当たって、研究会を設け、中間報告をまとめた。

基本施策 1－6 意欲と指導力のある教職員を確保・育成するとともに、教職員が職務に専念できる体制を整備する

1 概要

- 意欲ある教職員を育て、確保するとともに、ライフステージに応じた研修のさらなる充実等を図ることにより、教職員が、教育への使命感と熱意を持って子どもの指導を行い、授業力や指導力など、教職員としての資質を一層高められるようにします。

○子どもや保護者との相互の信頼関係の下に、よりよい教育が実現できるよう、教職員への支援に向けた体制整備を推進することにより、教職員が一人一人の子どもとじっくりと向き合えるような環境づくりを進めていきます。

2 成果指標

(1)信頼される教職員の確保

①優れた教職員の採用・登用

使命感を持ち、熱意と愛情にあふれ、子どもたちや保護者等から信頼される優れた教職員を採用・登用します。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
教員採用選考において、インターンシップ研修生が本市を受験する率	81%	83%	85%	85%	85%
免許外教科担任の許可申請件数	50	49	59	59	65※
※24 年度から新学習指導要領の完全実施により、1 学校当たりの教員数は変更ない状態で、理科や英語の時間数が増加したため、技術等の免許外教科担任が増加する状況となっている。					
主な事業	○教職インターンシップの推進 ¹⁷ 本市教員を希望する大学生等を対象に、小学校での実践研修の機会を提供し、教員としての資質能力を高めることにより、優秀な教員の確保を図ります。 ○中学校教科担任教員の確保 中学校における免許外教科担任の解消を図るため、非常勤講師を配置します。				

(2)信頼される教職員の確保

①教職員の資質・指導力の向上に向けた各種研修の充実

職務遂行に必要な研修や教職員のキャリアに応じた研修を計画的に実施し、教職員の資質や指導力の向上を図り、優れた教育実践の普及を目指します。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
基本研修受講者の満足度	90%	90%	91%	90%	90%
全教職員に対する専門研修受講者の割合	100%	100%	100%	100%	100%

¹⁷ 千葉県内の公立小学校教員を希望する大学生、短期大学生および大学院生を対象に、学校での実践研修を体験する機会を提供し、教職への理解を深めるとともに教員としての資質能力を高めることを目的として実施する制度。

現場研究員、長期研修生、海外派遣研修の研究・研修成果の発表	全研修員による発表	全研修員による発表	全研修員による発表	継続	継続
主な事業	○現場研究員による研究 勤務校における実践的な研究を通して、各教科およびその他の教育活動に関する専門的資質を向上させ、本市学校教育の課題解明を図ります。 ○長期研修の実施 長期の研修の機会を設け、教育専門職としての資質力量を高め、本市教育の充実発展に寄与する人材を育成します。 ○海外派遣研修の実施 教員等に諸外国の教育などの実情を視察させ、国際的な視野に立った識見を高め、本市教育の充実発展に寄与する人材を育成します。				

②教育研究の奨励

本市の教育活動をより充実させ、各学校の教育力を高めるため、研究学校を指定して教育課題の解明に向けた研究を行うとともに、意欲あふれる教職員を称揚し、優れた教育実践の蓄積とその成果の普及を図ります。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
研究指定校の報告会参加人数	1,700	1,700	1,670	1,700	1,700
教職員教育研究発表会の応募教科・領域等の割合	65%	75%	75%	77%	80%
出前講座等により研究成果を校内研究で取り上げる学校の割合	36%	40%	39%	40%	40%
教育研究奨励賞受賞者累計数	1,044	1,069	1,069	1,094	1,169
主な事業	○教育研究奨励賞による顕彰 各教科等における研究実践活動が特に顕著な教職員を表彰し、全教職員の研究奨励を図ります。 ○教職員教育研究発表会の実施 教育活動に関する個人またはグループでの研究や実践を対象として発表の場と機会を設け、努力を称揚するとともに、その成果を広めて各学校の教育活動に役立てます。				

③教職員のモラル向上

本市教職員一人一人が自分の立場と職責を自覚し、服務規律を遵守するよう促します。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
学校管理訪問の年間実施校の割合 ¹⁸	全市立 学校の 3 分の 1	全市立 学校の 3 分の 1	全市立 学校の 3 分の 1	継続	継続
主な事業	○教職員服務規律の確保 学校の職場内研修をはじめ、初任者研修等の悉皆研修等で啓発を図るとともに、管理職研修や学校管理訪問を通じて、教職員に対する服務規律についての指導を行います。				

(3)教職員への支援体制の充実

①外部人材等を活用した教職員支援システムの整備

学校現場において教員が充実した学校教育活動を行うため、また、子どもと向き合う時間を拡充するための具体的施策を推進します。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
NPO人材の活用学校数 (上：小学校、下：中学校)	63 12	50 20	68 17	70 20	90 30
教員の校務用コンピュータ整備率（併用型含む）	81.2%	84.3%	81.3%	81.3%	100%
教員の勤務負担に関する委員会の対応（勤務による負担が減少したと感じる教員の割合）	—	検討及び実施準備	検討及び実施準備	検討及び実施	50%
学校問題解決支援体制の整備	調査検討	検討準備	検討準備	検討準備	整備
主な事業	○NPO「ちば教育夢工房」による教育の支援 学校への人的支援を担うNPO「ちば教育夢工房」による学校支援を通して、きめ細かな授業や学校教育活動の充実を推進します。 ○校務のIT化の推進 校務の効率化による教員の負担軽減等のため、全ての教員が一人一台のコンピュータを校務に活用できる環境を整備する等、情報セキュリティの確保を図りつつ、校務のIT化を積極的に推進します。 ○教職員の勤務負担軽減 学校現場における教職員の勤務実態を調査し、勤務負担軽減のための検討を行い、具体的方策を探ります。				

¹⁸ 各学校の教職員の実状を把握するとともに、学校管理に関する事務の適正な処理、施設の管理・充実の諸条件などについて情報交換をするため、学校財務課、学校施設課、学事課、教職員課、保健体育課の職員で計画的に行う学校訪問。

(4)教職員の人事管理の適正化

①教職員の人事評価制度の実施

教職員の資質能力および職務に対する意欲の向上を図り、学校の教育力を高めるとともに、活力があり信頼される学校づくりを目指します。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
全市立学校長を対象とした目標 申告に関する面接の実施	実施	実施	実施	継続	継続
主な事業	○目標申告制度の充実と業績評価の検討 教職員が年度目標を設定し、一人一人の自主性と自己統制に基づいて目標を達成する「目標申告制度」を充実させるとともに、その実績や過程を客観的に評価することにより、教職員の資質向上、学校組織の活性化を図ります。				

②教職員顕彰制度の実施

研究実績や教育実践に基づく顕彰により、優秀で多様な能力を持った教職員の育成を図ります。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
教育研究奨励賞受賞者累計数	1,044	1,069	1,069	1,094	1,169
主な事業	○教育研究奨励賞による顕彰 各教科等における研究実践活動が特に顕著な教職員を表彰し、全教職員の研究奨励を図ります。				

3 平成 23 年度の評価および今後の課題に対する対応方針

(1) 信頼される教職員の確保

- 教職インターンシップの推進により、小学校 104 校に 162 人、特別支援学校 2 校に 14 人のインターンシップ研修生を派遣し、将来の教員としての資質を高めるようにした。
- 中学校における免許外教科担任の解消を図るために、10 校 5 教科分として非常勤講師を 18 人配置した。

(2) 教職員の資質・指導力の向上

- 教員の資質向上のため、教育センター・養護教育センターにおける各種研修の充実に努めた（夜間講座、土曜講座、出前講座など）。
- 教育センターの専門研修は 102 講座を開設し、6,000 人を超える教職員が研修に取り組んだ。また、10 校の教育委員会指定研究校の公開研究会において成果を学ぶことにより、各学校の教育活動の改善に生かし、資質能力（指導力）の向上を図った。

(3) 教職員への支援体制の充実

- NPO ちば教育夢工房への委託により「子どもの夢をはぐくむ学校サポート推進事業」

を進めた。教員が子ども一人一人に向き合う環境づくりを一層推進することが必要であることから、退職教員や学生、経験豊かな社会人等の人材を学校の要望に応じて 95 人の学校支援員を配置した。引き続き施策の充実を図る。

○小中学校の教職員を対象としたメンタルヘルス研修会、学校医・スクールカウンセラー等の学校への巡回訪問、メンタルサポート委員会の開催により、教職員のメンタルヘルス向上を図った。

○学校現場の負担軽減検討会において、校務分掌の適正化や調査照会の削減など、具体的な解決策について検討を進め、多忙化の軽減を図っている。

○教育委員会内設置の行事委員会で、教育委員会が主催する行事全体についての見直しを図るとともに、各学校においては、それぞれの実態に応じて教育課程を工夫し、会議や打ち合わせの回数削減、学校行事等の精選を行っている。

（4）教職員の人事管理の適正化

○教職員の目標申告制度の充実を図っている。引き続き、他政令市や千葉県における業績評価の実施状況について検討する。

○教職員の資質・力量の向上が求められている中、優秀な教職員を表彰することにより、他の教職員の励みとするとともに、教職員研修の充実に努める。

基本施策1ー7 多様な教育的支援を充実させるための教育環境整備を一層推進する

1 概要

○発達障害を含む障害のある子どもの教育的ニーズに応じた適切な支援体制を整備することにより、一人一人の子どもに、自立と社会参加の力を身に付けさせていきます。

○外国人児童生徒や海外帰国児童生徒の増加が予想されるなかで、こうした子どもの教育環境を一層整備するとともに、不登校児童生徒等の学びの機会を充実させていきます。

2 成果指標

（1）特別支援教育の推進¹⁹

①特別支援教育サポート体制の整備

L D²⁰、A D H D²¹、高機能自閉症²²等の発達障害を含めた障害のある児童生徒に対す

¹⁹ 障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導および必要な支援を行うもの。

²⁰ 「Learning Disabilities（学習障害）」の略。基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、

る特別支援教育の支援体制の整備を推進します。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
指導員配置により、学習の取り組み状況や生活面が改善した児童生徒の割合	75%	75%	75.5%	76%	85%
学校訪問相談員が訪問した学校数	70	70	70	90	依頼を受けた全学校に訪問
教育相談を受けるまでの時間数	—	1 月以内	20.5 日	20 日	2 週間
特別支援教育の研修講座の内容に対する受講者の満足度	96%	96%	96%	97%	97%
主な事業	○特別支援教育指導員の配置 緊急に対応が必要な A D H D 児等が在籍する学校に対して、特別支援教育指導員を配置し、子どもの学習や生活の状況の改善を図るとともに、校内支援体制整備の推進を支援します。 ○学校訪問相談員の派遣 L D や A D H D、高機能自閉症等のある児童生徒に対して、一人一人の教育的ニーズに対応した的確な指導が行えるよう、学校訪問相談員を派遣し、学校や担当教師への指導助言を行います。 ○特別支援に関する教育相談 来所相談や学校訪問相談、電話相談、医療相談、グループ活動などを通して、障害等のある幼児・児童生徒および保護者、教職員等に対して教育相談を行います。 また、L D 等通級指導教室²³との連携および支援のほか、教育セン				

話す、読む、書く、計算するまたは推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示すさまざまな状態を示すものである。その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。

²¹ 「Attention・Deficit / Hyperactivity Disorder（注意欠陥/多動性障害）」の略。年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、および/または衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。また、7 歳以前に現れ、その状態が継続し、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

²² 3 歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものをいう。また、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

²³ 小・中学校の通常の学級に在籍している軽度の障害がある児童生徒に対して、各教科などの指導は学級で行いつつ、障害に応じた特別な指導を特別な場で行う特別支援教育の形態。

	ターや療育センター、教育委員会指導課、市内特別支援学校等との連絡会を実施し、教育相談活動のさらなる充実・推進を図ります。
--	--

②体験活動を通じた社会性の伸長

就労体験や宿泊体験活動を通じて、障害のある児童生徒の社会性をはぐくみ、コミュニケーション能力の向上を図ります。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
長柄ハッピーキャンプに参加した後、学校や家庭において良い変容が見られる割合 ²⁴	65%	65%	73%	75%	60%
主な事業	○長柄ハッピーキャンプの実施 養護教育センターでのグループ活動参加児童及びLD等通級指導教室通級児童を対象に少年自然の家での集団宿泊体験を行い、社会性とコミュニケーション能力を向上させ、通常学級での適応力を向上させます。				

③特別支援学校の整備・充実

「千葉市における特別支援教育のあり方に関する検討会議」の答申を受け、高等特別支援学校の設置や市内の特別支援学校の再編など、整備充実に向けた検討を行います。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
高等特別支援学校の設置 ²⁵	調査検討	設置に向け協議	設置に向け協議	設置準備の完了	設置
主な事業	○高等特別支援学校の設置 市立の高等特別支援学校の設置に向けた検討を行い、その設置を図ります。				

(2)不登校児童生徒への支援の充実

①学校復帰への支援

適応指導教室²⁶等における個に応じた指導により、学校生活復帰に向けた支援を行い

²⁴ 参加者全員に対して、生活上の自立や対人関係・社会性等に関する内容について、担任や担当指導主事が、児童や保護者による事前・事後のアンケートや児童の学校生活の様子等から、明らかな改善が見られたと判断した児童の割合。

²⁵ 「特別支援学校」は、障害の重複化や多様化を踏まえた、障害種別にとられない学校の設置形態のこと。地域の特別支援教育のセンター的役割を担う。

「特別支援学級」は、障害に応じた教科指導や、障害に起因する困難の改善・克服のための指導を行う学級の設置形態のこと。

²⁶ 不登校状態の児童生徒を対象に、一時的な居場所を確保するための施設であり、最終的には学校生活への復帰を支援することを目的にしている。教育センターと連携して、人間関係や集団生活への適応

ます。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
不登校児童生徒のうち登校できるようになった児童生徒の割合 (上：小学生、下：中学生)	25% 30%	27% 32%	30% 32%	30% 35%	30% 35%
適応指導教室での活動により学校復帰できた児童生徒の割合	63%	65%	86%	75%	75%
教育センターでのグループカウンセリング活動に参加した児童生徒のうち、学校復帰に向けた改善が図られ、教育相談指導教室に入級できた児童生徒の割合	44%	46%	55%	50%	50%
主な事業	○適応指導教室の設置および運営・管理 不登校児童生徒の一時的な居場所として「適応指導教室（ライトポート）」を設置し、少人数による集団活動や体験活動を行い、社会性・協調性を育成するとともに、学習の支援を行い、学校生活への復帰を図ります。 ○不登校やいじめに関する教育相談の実施 不登校やいじめ等教育全般にわたる悩みを持つ保護者や児童生徒・教師等の相談に応じます。 ・教育相談ダイヤル 24 ・教育センターの電話相談、来所相談（個別相談・医療相談・グループカウンセリング活動）、家庭訪問相談 また、各相談機関との連携を図り、相談活動の一元化を目指します。				

(3)国際化への対応

①外国人児童生徒の学びへの支援

帰国・外国人児童生徒の適応指導と特性を伸長させるための指導の充実を図ります。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
日本語指導が必要な帰国・外国人児童生徒で指導を受けている児童生徒の割合	98%	98%	98%	同水準 を維持	同水準 を維持 ※
※外国人児童生徒の話す言語により、指導が困難なものも存在するため、100%とすることが困難。					

を支援する。

主な事業	○外国人児童指導教室の設置 ²⁷ 帰国・外国人児童生徒教育を円滑に進めるため、外国人児童指導教室を設置し、必要な備品や消耗品を整備します。
------	---

(4)教育の機会均等を図るための支援の充実

①各種就学支援

経済的理由により就学が困難な児童生徒への支援を行います。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
入学説明会等において就学援助制度に関する保護者への説明を実施する学校	全小・ 中で実 施	全小・ 中で実 施	全小・ 中で実 施	継続	継続
主な事業	○就学援助 教育の機会均等の理念に基づき、経済的な理由により就学が困難な小・中学校に通う児童生徒の保護者に対し、就学援助を実施します。 (学用品費、修学旅行費、給食費などを支給)				

②学びの機会の提供

学校に行けない児童生徒に対して、学習の機会を提供します。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
不登校児童生徒がいる学校で「IT 等を活用した学習」を活用している割合 ²⁸	34%	35%	37%	40%	50%
主な事業	○「IT 等を活用した学習」の実施 不登校児童生徒の「IT 等を活用した学習」による教科学習を支援します。				

3 平成 23 年度の評価および今後の課題に対する対応方針

(1) 特別支援教育の推進

○通常の学級に在籍し、緊急な対応を要する ADHD 児等が在籍する学校に対して、前期 25 人、後期 25 人の特別支援教育指導員を配置し、子どもの学習や生活の状況の改善及び校内支援体制の整備支援を行った。また、学校訪問相談員を 125 校に派遣した。こうしたことにより、多くの対象児童生徒が学習面や行動面で顕著な改善がみられている。

²⁷ 日本語の習得が不十分な帰国・外国人児童生徒の日本語指導カリキュラムを作成し、決められた時間に専任教員が指導する教室。

²⁸ パソコンやコンピュータネットワークなどを利用して教育を行うこと。学習者は、時間的、空間的制約を越えて、インターネット上で教材などを取得しながら学習する。

（2）不登校児童生徒への支援の充実

- 不登校生徒対策を支援し、学校への復帰を図るために教育センターの家庭訪問相談員、電話や来所による相談などを行っている。さらに、適応指導教室「ライトポート」、教育相談指導教室を設置している。ライトポートは、平成 15 年 1 月に「ライトポート花見川」を開設し、平成 16 年に「ライトポート若葉」、平成 18 年に「ライトポート中央」、平成 21 年「ライトポート美浜」を開設した。さらに、平成 23 年 10 月に「ライトポート緑」を開設した。
- 生徒指導調査研究委員会において不登校傾向に対する対応方策をまとめた提言（報告書）を活用し、各学校におけるケースに応じた適切な初期対応等の取り組みに役立てている。平成 23 年度は、今までの報告書の中で、小学校は保護者対応、中学校はいじめ対応に焦点を当て、校内研修モデルプランを作成し、各学校の不登校対策の一環として活用できるようにした。

（3）国際化への対応

- 外国人児童指導教室を 2 か所設置するとともに、外国人児童生徒指導協力員を 11 人派遣し、92 校（316 人）の対象児童生徒を支援した。

（4）教育の機会均等を図るための支援の充実

- 「教育課題への対応検討会議」を設置し、外国にルーツを持つ児童生徒等を対象とする日本語指導のあり方について検討を開始した。
- 不登校児童生徒がいる学校で「IT 等を活用した学習」の活用を促進した。校長会・教頭会・研修会等、さまざまな場面で広報したことにより、申請率が上昇した。

基本施策1－8 学校・家庭・地域・行政が一体となって、子どもの成長をサポートする

1 概要

- 学校・家庭・地域・行政がそれぞれの役割を踏まえ、互いの連携を下に、地域特性等を生かした特色ある学校づくりが一層進められるよう、学校評価等による学校改善に向けたシステムづくりを進めます。
- 学校教育のさらなる充実に向け、地域の教育的資源と力を取り込む仕組みづくりを進めるなど、学校・家庭・地域・行政が一体となって子どもの成長をサポートする体制を構築していきます。

2 成果指標

（1）学校・家庭・地域・行政の連携による取り組みの推進

①学校改善システムの構築

学校が自校の課題を的確に捉え、目標を明確にした上で、学校教育を展開し評価することにより、教育活動の改善を図ります。

また、自己評価、学校関係者評価等を通して、その結果の公表や説明責任を果たす開かれた学校づくりを進めます。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
学校関係者評価を実施している 学校の割合 ²⁹	100%	100%	100%	100%	100%
主な事業	○学校評価システムの実践研究 実践校を指定し、学校評価の実践研究に取り組みます。実践研究の成果を、各学校における学校評価に活かし、本市学校評価の推進を図ります。 ○学校評価の実施 各学校において自己評価、学校関係者評価を実施し、学校改善に生かします。				

②教育情報の発信

教育上の課題等を学校・家庭・地域・行政が共通認識し、連携して対応するため、教育情報紙やホームページを通じて、本市の教育施策や各学校の情報を積極的に提供します。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
学校ホームページの定期的更新 を実施している学校の割合	100%	100%	100%	100%	100%
主な事業	○学校情報の発信 学校ホームページ等により、学校の経営方針や教育内容など、学校の情報を積極的に発信します。				

③学校・家庭・地域・行政による連携システムの構築

学校教育の充実に向け、学校と家庭、地域が連携して取り組めるよう、行政が中心となって相互の連携に向けたシステムづくりを進めます。

項目	22 年度	23 年度 目標	23 年度 達成値	24 年度 目標	目標値 (27 年度)
NP0 人材の活用学校数 (上：小学校、下：中学校)	63 12	50 20	68 17	70 20	90 30
主な事業	○地域ぐるみの学校安全体制の整備				

²⁹ 学校の自己評価結果について、保護者や地域住民などの学校関係者が、教育活動の観察や意見交換を通じて評価することを基本として行う評価。

	年度ごとに地域（1 中学校区）を指定し、地域との連携の中、地域社会全体で学校安全に取り組む体制を整備します。 ○NPO「ちば教育夢工房」による支援の推進 学校への人的支援を担うNPO「ちば教育夢工房」による学校支援を通して、きめ細かな授業や学校教育活動の充実を推進します。
--	---

3 平成 23 年度の評価および今後の課題に対しての対応方針

(1) 学校・家庭・地域・行政の連携による取り組みの推進

- 研究実践校（5 校）の実践を通して、学校評価結果と学校運営の改善をどのように連動させれば効果的に進めることができるか評価システムについて研究した。研究結果については、報告書等で市内各学校に伝えるとともに、実践校のホームページにも記載した。
- ホームページへの学校評価の掲載を推進し、28%の学校が学校評価の公表に努めている。
- 学校ホームページによる学校情報は、定期的に 100%の学校で実施された。（年 3 回以上の更新回数は 46%）
